

第3回「農業・農村はかっこいい！」

和歌募集

見本

アピール文 記載例

氏名

定住

和歌

ていじゆう

わか

夏の季節になると、毎年恒例の草刈りがはじまります。年々あがる気温と戦いながら、一生懸命、家の周辺の草刈りをしています。約一時間もすると、まるでシャツのまま水の中に入ったかのように、汗でびっしょりになります。大変な作業ですが、傍らに積まれた草の山を見ると、戦いに勝った爽快感に包まれます。

ある日、いつものように右に左にと草刈り機の刃先を回していると、勢いよく伸びた草の間から、ウツボ草の濃紫の花が顔を出していました。よく、紫は高貴な色と言われますが、その例えに恥じることなく、周辺の草たちに負けないよう、その花は凛とその場に咲いていました。わたしはそんなウツボ草を、草とともに刈りとってしまわないよう、慎重に、慎重に刃先を動かしました。

都会から地元に戻り、まだまだ草刈り新人のわたしですが、少しずつカレンダーではなく、であう草花で季節を感じられるようになりました。四季それぞれの花に、自然を感じ、その姿に心を寄せる生活には、都市にはない充実があります。一見、平凡でなんてことない日々の暮らしですが、自分の育ったこの地域で、毎日新たな発見があることが、今のわたしの小さな楽しみです。